
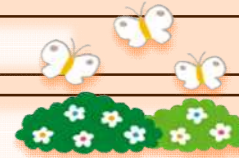


認知症の段階	気づき～軽度	中等度	重度	終末期	
生活	自立して生活ができる	手助けがあれば生活ができる	生活支援に加え介護も必要になる	介護が多く場面が必要になる	ほぼ全面的な介護が必要になる
本人の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>物忘れの自覚がある</li> <li>ことばが出にくく「あれ」「それ」という</li> <li>ヒントがあれば思い出せる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じことを何度も聞く</li> <li>置き場所を探し回る</li> <li>約束したことを忘れる</li> <li>物を盗られたと言う</li> <li>話を取り繕う</li> <li>不安、イライラ、焦り、抑うつ</li> <li>自信喪失</li> <li>買い物の小銭が払えない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>料理がうまくできない</li> <li>季節に応じた服が選べない</li> <li>今まで使っていた電化製品、機器が使えない</li> <li>自分の年齢を若く言う</li> <li>外出先（慣れていない場所）で道に迷う</li> <li>食べ物をあるだけ食べる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>箸など道具を使えない、一人で食事ができない</li> <li>飲食物をうまく飲み込めない</li> <li>食べ物以外のものを口に入れようとする</li> <li>一人で着替えができない（前後や表裏、上下、順番がわからない）</li> <li>言葉が理解しにくい</li> <li>尿意や便意を感じにくい（失敗が増えてくる）</li> <li>うまく歩けない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中うつらうつらしていることが多い</li> <li>言葉が減り、声掛けへの反応が少なくなる</li> <li>うまく飲み込めない、口から食事がとりにくくなる</li> </ul>
記憶		直近の事を覚えられない	いつ、どこで、何をしたか忘れる	子供の頃、若いころの記憶の世界で生きる	
場所・日時・人物		時間や日にちが分からなくなる	季節年次が分からなくなる	近所で道に迷う。親しい人が認識できなくなる	自宅のトイレが分からない
対応のポイント	<p>家事などを続け、手先や頭を使う。閉じこもりにならないように、趣味を持つなど日常生活を活発に過ごす。</p> 	<p>大事なことや出来事は書き留める。</p> <p>ゆっくり、短い言葉で、一つずつ伝える。</p> <p>時間の見当がつく工夫をする。（季節感のあるカレンダー・デジタル時計、おはようございます、こんにちは等の挨拶）。</p> <p>出来ることもたくさん残っている。趣味や仕事で養ってきた得意分野を生かすと昔の記憶がよみがえり、心の安定につながる。</p> <p>道に迷わないよう外出の際は目印を決める。</p>	<p>説得より、その場の納得（理論での説得は無理）。一緒に行動するなど気持ちを受け止めると、そのうち忘れて気持ちが変わることもある。</p> <p>自然の風や光に適度にあたる。思い出の風景を散歩するだけでも昔がよみがえり、安心につながる。</p> <p>言葉以外のサインを大切に。表情やしぐさなどから気持ちを読み取る。背中をさするなどで安心感を与える。</p> <p>昔の思い出にふれたり、なじみの歌を楽しむことにより、その時の気持ちがよみがえり不安が軽減する。</p>	<p>身体管理を十分に行う。自分で訴えることが難しいので、水分や食事、排泄 など状況を観察する。落ち着かない様子が身体状況からきていることもある。</p> 	
ご家族や身近な方へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の役割を作りましょう。例：家事、孫やペットの世話等</li> <li>本人への声掛けをしましょう。</li> <li>会う機会を増やしましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症という病気や、介護について勉強しましょう。</li> <li>親戚や本人の親しい人には病気の事を伝えておきましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護サービスを利用したり、家族の集いの場を利用しましょう。戸惑うような出来事が多い時期、専門家に相談したり同じ悩みをもつ家族の会など仲間と話し、負担を軽減しましょう。</li> <li>今後の見通しを立て、介護や金銭管理などについて考えておきましょう。</li> <li>本人が今後どのような生活を希望しているか話し合っておきましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の視点に立って、延命処置や医療をどの程度行うかなど、家族で相談しておきましょう。</li> </ul>	
相談窓口	<p>新城地域包括支援センター 23-6810</p> <p>各高齢者ふれあい相談センター</p> <p>健康課 23-8551</p> <p>高齢者支援課 23-7688</p> <p>居宅介護支援事業所</p> <p>小規模多機能型居宅介護</p>				
医療	<p>かかりつけ医</p> <p>認知症疾患医療センター</p> <p>専門医</p> <p>サポート医</p> <p>かかりつけ歯科医</p> <p>かかりつけ薬局</p>				
支援体制	<p>支援</p> <p>認知症初期集中支援チーム「しんしろ結ゆいチーム」</p> <p>認知症地域支援推進員</p> <p>介護保険在宅サービス</p> <p>予防：健康体操、老人クラブ、介護予防教室「木曜塾」</p> <p>見守り：友愛訪問、民生委員の訪問、高齢者サロン</p> <p>啓発：認知症サポーター養成講座、介護者家族のつどい、認知症家族の交流会、認知症カフェ</p> <p>住まい：サービス付高齢者住宅、ケアハウス、有料老人ホーム、養護老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、老人保健施設、特別養護老人ホーム</p> <p>福祉サービス：緊急通報システム、配食サービス、1人暮らし高齢者安否確認</p> <p>暮らし：日常生活自立支援事業：認知症高齢者などが自立した生活を送れるよう、利用料の支払いなど一連の援助を行う事業</p> <p>成年後見制度：認知症など判断能力が十分でない方が不利益を被らないように、法的に財産の管理や各種手続きなどを行える制度</p> 